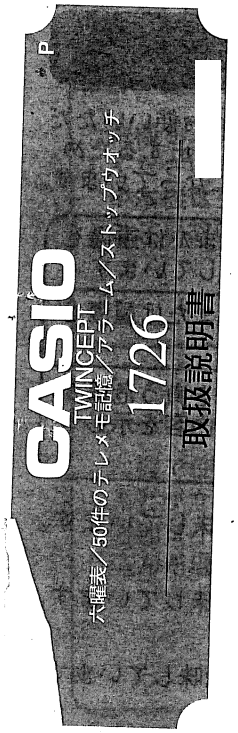
本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。



1726

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
なお、この説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。
本機のお取り扱いで、万一、誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。本機の特長、機能を十分に使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

◆本機の特長◆

- **アナログ&デジタル時計**
  アナログ時計の文字板にデジタル表示が浮き上がります。デジタル表示を消して、アナログ時計としても使えます。
- **ELバックライト**
  暗いところでもボタン1つで表示を明るく照らします。
- **カレンダー機能**
  大安などがわかるカレンダーを表示します。
- **テレメモ記憶**
  最大50件の名前&電話番号を記憶します。
- **アラーム・時報報知**
  任意の時間にアラームを鳴らすことや、毎正時に時報を鳴らすことができます。
- **ストップウオッチ機能**
  1/100秒単位で23時間59分59秒99まで計測できます。

当機種において表示される六曜データのうち、1996年1月1日～2010年12月31日までのデータに関しては、(財)日本水路協会　海洋情報室提供の旧暦表と照合したものです。2011年1月1日～2020年12月31日までのデータに関しては、上記の計算方法に基づいた略算式により算出した予測データであり、弊社独自の算出方法によるものです。
なお、大事なことを決める際には、最新のカレンダー等と併用なさることをおすすめします。

カシオ計算機株式会社　　MA 9706-001205D

安全上のご注意

絵表示について　この注意書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例


△記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています。
（左の例は感電注意）


⃠記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています。
（左の例は分解禁止）


●記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。
※本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となることがあります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。
電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して下さい。

⚠注意

お手入れについて

本体やバンドは吸湿性のよい柔らかい布でふいて、いつも清潔にしてご使用ください。汚れたままにしておくと、変色や破損、皮膚のかぶれの原因となります。
万一、本機使用により皮膚がかぶれたときは、そのバンドの使用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

ステンレス製のバンドの場合、汚れからサビが発生し、衣服の袖を汚すことがあります。

分解しないでください

本機を分解しないでください。本機が故障したり、ケガをする原因となることがあります。

データ控を作ってください

記憶させた内容は、付属の備忘録やノートなどに書くなどして、本機とは別に、必ず控えを残してください。
本機の故障、修理や電池消耗により、記憶内容が消えることがあります。

◆ 目　次 ◆

操作のしくみと表示の見方——4
デモ（デモンストレーション）機能について…4

ライト点灯について——5

テレメモの使い方——6
テレメモとは……6
データを入力する……6
テレメモデータの呼び出し……9
データを修正する……9
データを消去する……10

カレンダー機能の使い方——10
時刻・カレンダーモードで見る……10
任意の月のカレンダーを見る……11
六曜を見る……11

アラーム・時報の使い方——12
アラーム時刻のセット……12
鳴っている電子音を止めるには……13
モニターアラーム……13
アラーム・時報のON/OFFの設定……13

ストップウオッチの使い方—14
計測のしかた……14

時刻・カレンダーの合わせ方—15
デジタル部時刻の合わせ方……15
アナログ（針）部の合わせ方……16

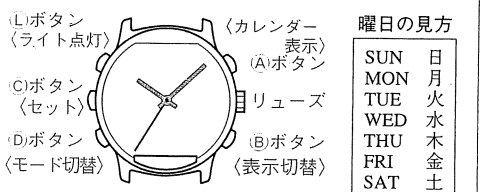
製品仕様……17
ご使用上の注意……18
お手入れについて……19
電池交換について……20

操作のしくみと表示の見方

Ⓓボタンを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。
※各モードで、何らかのボタンを押したあとにⒹボタンを押すと、直接時刻・カレンダーモードに戻ります。

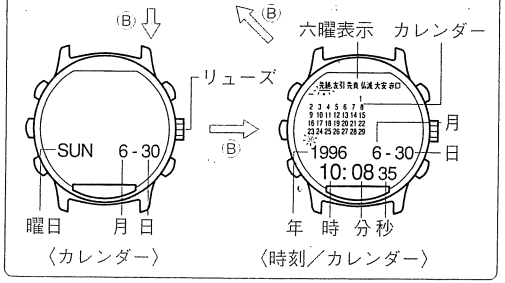
時刻・カレンダーモード

Ⓑボタンを押すごとに表示内容が変わります。お好きな表示にしてお使い下さい。

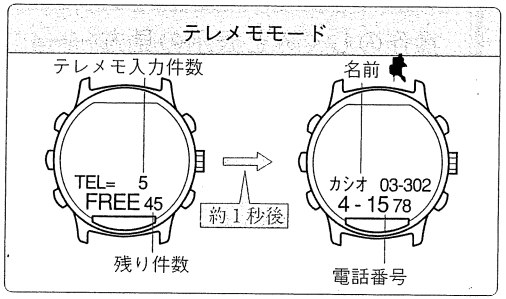


曜日の見方

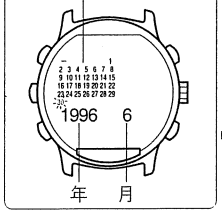
SUN	日
MON	月
TUE	火
WED	水
THU	木
FRI	金
SAT	土



テレメモモード



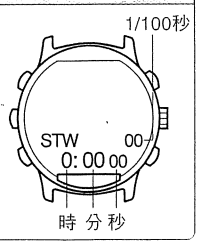
カレンダーモード



アラームモード



ストップウォッチモード



デモ（デモンストレーション）機能について

本機は工場出荷時に「デモ機能（＝本機の機能の一部を自動的に表示するもの）」に設定されています。

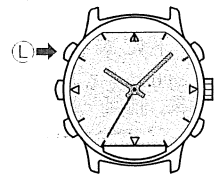
- 「デモ機能」の解除
  「デモ機能」の表示となっているときは、Ⓓボタン（左下）を、（表示が止まり、確認音が鳴るまで）約3秒間押し続けます。
- 「デモ機能」の設定
  解除時と同様にⒹボタン（左下）を（確認音が鳴るまで）約3秒間押し続けます。

■ライト点灯について
（暗い場所で表示を見るには）

どのモードでも、Ⓛボタンを押すと文字板が1～2秒間発光します。

→暗いところでも、表示を見ることができます。

※もう一度Ⓛボタンを押すと、その時点から引き続き1～2秒間点灯します。ただし、Ⓛボタンを約5秒以上押し続けると、自動的にライトが消えます。



〈注意事項〉
- 直射日光下では、発光が見えにくくなります。
- 発光中にアラームなどの電子音が鳴ると、発光を中止します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは発光のためにELパネルが振動するときの音で、異常ではありません。

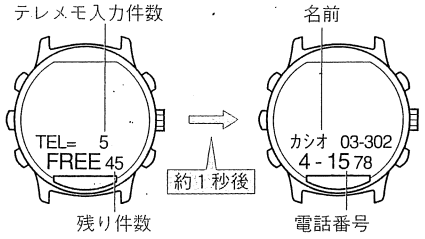
テレメモの使い方

■テレメモとは

名前と電話番号を同時に記憶できる機能です。
本機は、名前８文字、電話番号12桁を最大50件まで記憶できます。
データを入力すると、名前順に並び替わりますので、データを探すときもたいへん便利です。（９ページ「テレメモデータの呼び出し」参照）

●テレメモモードにすると

テレメモモードに切り替えると、テレメモ入力数と残り件数を表示後、前回一番最後に見たテレメモを表示します。



■データを入力する

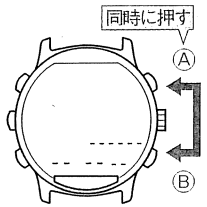
１件あたり、名前はカタカナやアルファベットなどで８文字、電話番号の数字は12桁まで入力できます。

(1) リセット表示にする

Ⓐ･Ⓑボタンを同時に押します

→リセット表示になります。

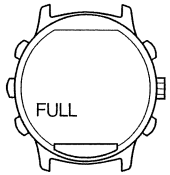
★データを１件も入力していないときにテレメモモードにすると、自動的にリセット表示になります。



〈リセット表示〉

＜ご注意＞

50件すべて入力してあるときは「FULL」表示となり、リセット表示になりません。このときは、10ページ「データを消去する」を参照して不要なデータを消しておいてください。



(3) 電話番号部の入力

電話番号部が点滅しているとき、以下の操作（数字を選ぶ、桁を選ぶ）を繰り返して入力します。

数字を選ぶ　Ⓑまたは Ⓐボタンを押します

Ⓑまたは Ⓐボタンを押すごとに点滅箇所に数字が表示されますので、表示させたい数字を選びます。

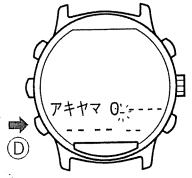
※Ⓑ・Ⓐボタンとも、押し続けると早く進みます。



桁を選ぶ　Ⓓボタンを押します

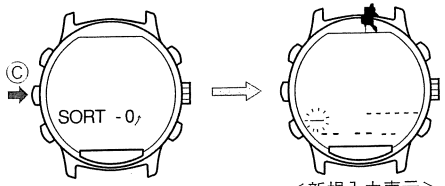
Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の桁が右に移動しますので、数字を入力したい桁を点滅させます。

※Ⓓボタンも、押し続けると早く進みます。



(4) 電話番号入力後、Ⓒボタンを押します

→ソート表示後、新規入力表示になりますので、続けて他のデータを入力できます。



(5) すべてのセットが終わりましたら、

もう一度Ⓒボタンを押します

→テレメモモードに戻ります。

(2) 名前の入力（最大８文字まで）

Ⓒボタンを約１秒間押します

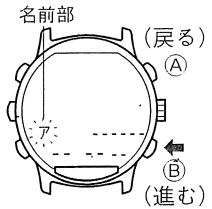
名前部が点滅しているとき、以下の操作（文字を選ぶ、桁を選ぶ）を繰り返して入力します。

文字を選ぶ　ⒷまたはⒶボタンを押します

ⒷまたはⒶボタンを押すごとに点滅箇所の文字がかわりますので、表示させたい文字を選びます。

※Ⓑ・Ⓐボタンとも、押し続けると早く進みます。

※カタカナのときは、押し続けるとア段の早送り（ア⇔カ⇔サ⇔タ…）になります。



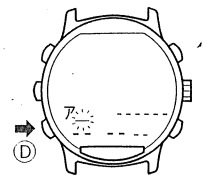
入力できる文字は以下のとおりです。

カタカナ	＞ア～ン、ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ、゛、゜
アルファベット	＞A～Z
数　字	＞0～9
記　号	＞－、.、／、：、■、空白

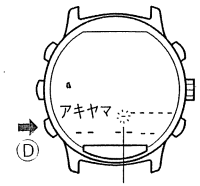
桁を選ぶ　Ⓓボタンを押します

Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の桁が右に移動しますので、文字を入力したい桁を点滅させます。

※Ⓓボタンも、押し続けると早く進みます。



→名前の入力がすべて終わりましたら、Ⓓボタンを押して点滅桁を電話番号に移動させます。（右図）

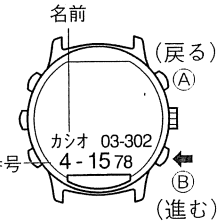


■テレメモデータの呼び出し

テレメモモードのときⒷまたはⒶボタンを押します

→Ⓑボタンを押すごとに名前順に進み、Ⓐボタンを押すごとに逆方向に進みます。

※Ⓑボタン、Ⓐボタンともにそれぞれ押し続けるとデータが早く進みます。

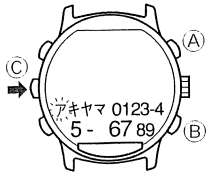


※名前が５文字以上の場合は４文字分を約１秒間表示し、５文字以降をスクロール表示します。

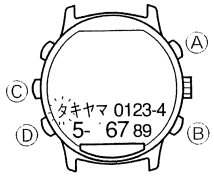
■データを修正する

(1) ⒷまたはⒶボタンを押して修正したいデータを選びます。

(2) Ⓒボタンを約１秒間押します。



(3) Ⓓボタンで修正したい箇所に点滅を移動させ、Ⓑ･Ⓐボタンで正しい文字･数字を表示させます。



(4) 修正が終わりましたら、Ⓒボタンを押します。

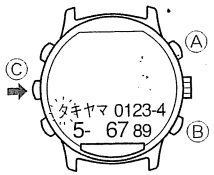
→ソート表示後、テレメモモードに戻ります。

※点滅表示のまま、２～３分すると、自動的に点滅が止まり、テレメモモードに戻ります。

■データを消去する

(1) ⒷまたはⒶボタンを押して消したいデータを選びます。

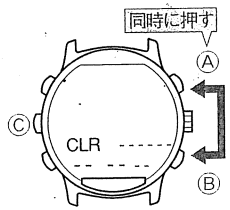
(2) ⓒボタンを約1秒間押します。



(3) Ⓐ・Ⓑボタンを同時に押します。

→“ CLR”表示後、データが消去されます。

※データ消去後は、引き続きデータ入力ができます。



(4) 消去が終わりましたら、ⓒボタンを押します。

→テレメモモードに戻ります。

※点滅表示のまま、2～3分すると、自動的に点滅が止まり、テレメモモードに戻ります。

※テレメモモードで何もボタン操作をしないと、2～3分後自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。

カレンダー機能の使い方

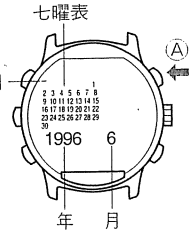
カレンダー機能は七曜表形式のカレンダーと大安などの六曜を表示します。

■時刻・カレンダーモードで見る

カレンダーを表示していないときはⒶボタンを押している間、当月の七曜表を表示します。

※このとき、六曜は表示しません。

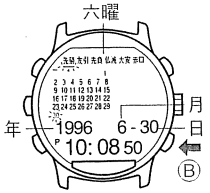
・七曜表カレンダーは左端が日曜日です。



常にカレンダーを表示させるには、Ⓑボタンを押します。

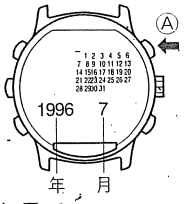
・七曜表カレンダーは左端が日曜日で、当日が点滅します。

・六曜表示は当日の六曜の下に下線が点滅します。



カレンダーを表示しているときにⒶボタンを押している間、翌月のカレンダーを表示します。

※このときは六曜は表示しません。



■任意の月のカレンダーを見る

任意の月のカレンダーを見るときは、時刻・カレンダーモードからⒹボタンを2回押してカレンダーモードにします。

カレンダーモードに切り替えると、当月の七曜表を表示します。

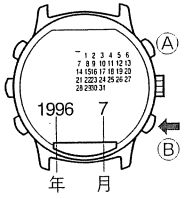
Ⓑ または Ⓐ ボタンを押します



→Ⓑボタンを押すごとに月が進み、Ⓐボタンを押すごとに月が戻ります。

※Ⓑボタン、Ⓐボタンともにそれぞれ押し続けると早く進みます。(早送りは、2年をまたぐと年単位の早送りになります)

・カレンダーモードで何もボタン操作をしないと、2～3分後自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。



■六曜を見る

ⓒボタンを押します

カレンダーモードでⓒボタンを押すと「ロクヨウ」と表示して数秒間計算したあと、六曜が表示され、「先勝」の日が点滅します。



次の「友引」の日を見る

ⓒボタンを押します

「ロクヨウ」と表示後、「友引」の日が点滅します。

続けてⓒボタンを押すごとに「先負」→「仏滅」→「大安」→「赤口」→六曜なし→「先勝」→「友引」→…の順で点滅します。

※六曜表示中にⒷまたはⒶボタンを押して任意の月に切り替えることができます。



六曜とは

六曜とは、そもそも月齢計算に基づくもので先勝（せんしょう）→友引（ともびき）→先負（せんぷ）→仏滅（ぶつめつ）→大安（たいあん）→赤口（じゃっこう）の順に繰り返される旧暦のことです。

アラーム・時報の使い方

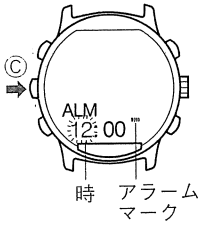
アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子音で知らせます。また、毎正時（00分）に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

準備：Ⓓボタンを3回押してアラームモードにします。

(1) ⓒボタンを約1秒間押します

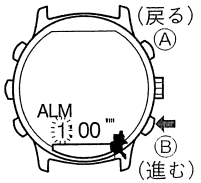
→「時」が点滅します。このときアラームマーク(▮▮▮)が点灯します。



(2) ⒷまたはⒶボタンを押します

→Ⓑボタンを押すと「時」が進み、Ⓐボタンを押すと戻りますので、セットしたい時刻を表示させます。

※それぞれ押し続けると早く進みます。



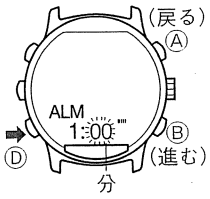
★「時」のセットのとき午前／午後（P）にご注意ください。

★基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻も自動的に24時間制表示となります。

(3) Ⓓボタンを押します

→「分」が点滅します。

「分」も「時」と同様にしてⒷ・Ⓐボタンを押して数字を選びます。



※もう一度Ⓓボタンを押すと「時」が点滅します。

(4) セットが終わりましたら、

ⓒボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

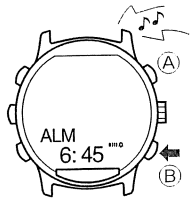
※点滅表示のまま2～3分すると自動的に点滅が止まります。

■鳴っている電子音を止めるには

電子音が鳴っているときに、いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

■モニターアラーム

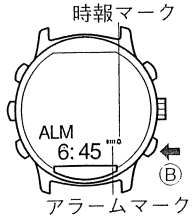
アラームモードのときにⒷボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

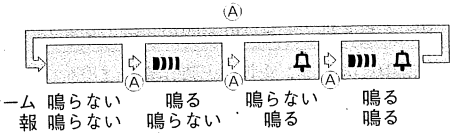


■アラーム・時報のON/OFFの設定

アラームモードでⒷボタンを押すごとに、以下の順でマークが点灯／不点灯します。

それぞれのマークが点灯しているときが“ON”となり、アラーム・時報が鳴ります。





※アラーム時刻のセットを行なうと、自動的にアラーム“ON”に設定されます。

・アラームモードで何もボタン操作をしないと、2～3分後自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。

ストップウオッチの使い方

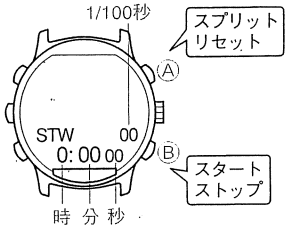
本機のストップウオッチは、1/100秒単位で23時間59分59秒99（24時間計）まで計測できます。計測時間がこの計測範囲を超えると、以後０に戻って繰り返し計測を続けます。

■計測のしかた

準備：Ⓓボタンを４回押してストップウオッチモードにします。

Ⓑボタンを押すごとに計測開始／終了します

※計測中にⒶボタンを押すと表示が止まり*、スプリットタイムを表示します。もう一度Ⓐボタンを押すとスプリットが解除されます。
*スプリットタイム表示中でも内部では計測を続けています。



★「時」のセットのとき午前／午後（P）または24時間制にご注意ください。

★「12／24時間制切り替え」のときは、Ⓑボタンを押すごとに「12H」↔「24H」と切り替わります。なお、アラームモードでの時刻もここで選んだ時制で表示されます。

★年は西暦で1996～2020年までセットできます。

★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は直す必要はありません。

(2) セットが終わりましたら、

Ⓒボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま２～３分すると自動的に点滅が止まります。

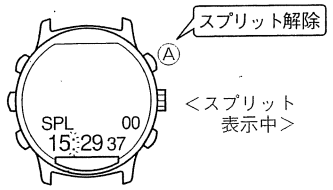
●通常計測

Ⓑ ⟹ Ⓑ ⟹ Ⓐ
スタート　ストップ　リセット

＜積算計測＞
ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずにⒷボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム計測（途中経過時間計測）

Ⓑ ⟹ Ⓐ ⟹ Ⓐ ⟹ Ⓑ ⟹ Ⓐ
スタート　スプリット　スプリット解除　ストップ　リセット



●１・２着同時計測

Ⓑ ⟹ Ⓐ ⟹ Ⓑ ⟹ Ⓐ ⟹ Ⓐ
スタート　1着ゴール（1着ﾀｲﾑ表示）　2着ゴール　2着ﾀｲﾑ表示　リセット

■アナログ（針）部の合わせ方

(1)リューズを引いて、秒針を止めます。



➡リューズを回して時刻を合わせます。

※右回り、左回りどちらに回しても構いません。

(2)デジタル時刻の「秒」が、秒針の止まっている位置と同じになったときにリューズを押し込みます。

※秒針が±１秒程度の遅れ（進み）が生じることがありますが、精度には影響ありません。

●デュアルタイム
アナログ時刻とデジタル部の時刻を別の時刻（海外の時刻など）にセットすれば、デュアルタイムとして使うことができます。

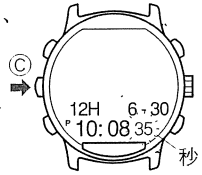
時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで、時刻・カレンダーが合っていない時は、以下の手順で合わせてください。

■デジタル部時刻の合わせ方

(1) 時刻・カレンダーモードのとき、

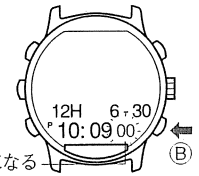
Ⓒボタンを約１秒間押します



→「秒」が点滅します。

●「秒」合わせ…±30秒以内の遅れ／進みの調整

時報に合わせて、Ⓑボタンを押します

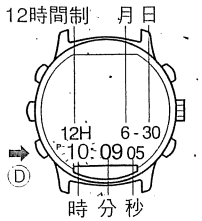


→「00」秒からスタートします。

秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは１分くりあがって「00」秒になります。
（時報は「時報サービス電話117番」が便利です）

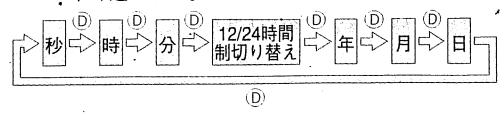
●「時刻・カレンダー」合わせ

a. Ⓓボタンを押します



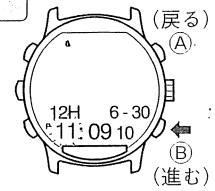
→点滅箇所が以下の順で移動します。点滅箇所がセット可能ですので、Ⓓボタンを押してセットしたい箇所を選びます。

※Ⓓボタンは、押し続けると早く進みます。



※「年」は12／24時間制をセットすると「12H」（または24H）のあとに表示されます。

b. ⒷまたはⒶボタンを押します



→Ⓑボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓐボタンを押すごとに数字が戻ります。

※Ⓑ・Ⓐボタンとも押し続けると早く進みます。

上記a、bの操作を繰り返して「時刻・カレンダー」を合わせます。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz

精　　度：平均月差±20秒以内

基本機能：時刻表示
アナログ部　時・分・秒（３針）
デジタル部　時・分・秒、午前／午後(P)／24時間制表示
六曜カレンダー表示
年・月・日・曜日、フルオートカレンダー（1996～2020年）、六曜

カレンダー機能：カレンダー一括表示（1996年1月～2020年12月）
六曜別六曜一括表示（先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口）
月サーチ　２段階早送り機能

テレメモ機能：名前（８文字）と電話番号（12桁）、を最大50件までメモリー、
自動ソート機能、メモリー使用件数／残り件数表示

アラーム機能：時刻アラーム
セット単位＝時・分
電子音＝20秒間
時報　毎正時に２回電子音で報時

ストップウオッチ機能：
計測単位＝1/100秒
計測範囲＝23時間59分59秒99（24時間計）
計測機能＝通常計測、積算計測、スプリットタイム計測、１・２着同時計測

その他：自動復帰機能、12/24時間制表示切り替え、モニターアラーム（アラーム音／時報音）、デモ機能、ELバックライト

主要回路素子：音叉型水晶振動子、ワンチップCMOS-LSI

使用電池：SR-1120W×２個（電池別途販売）
※電池はカシオ指定のものをご使用ください。

電池寿命：約２年

１日当りELバックライトを２秒間、電子音を20秒間使用した場合
ただし、上記条件に加えて、
１日あたりELを10秒間使用した場合　約16カ月
ELを20秒間使用した場合　約10カ月

ご使用上の注意

■防　水　性

●表面または裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンダイビング（素潜り）	×	×	○	○

※「BAR」は気圧の意味で、防水性の高さを表わします。
※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。

●表面または裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

●防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。

●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。

●防水性を保つために定期的（２～３年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。

●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）

●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

電池交換について

■最初の電池

●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。

※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。

※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

■消　　耗

●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。

●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

■電 池 交 換

●電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。

●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

●電池交換の際、防水検査を行ないます。（防水検査は別途有料となります）

ELパネル（表示照明部）の交換について
表示照明用として本機に使用しているELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）は、長期間使用しますと明るさが弱くなり、光が暗く見える場合があります。このようなときにはお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■バ　ン　ド

●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。

●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても実費にて申し受けます。

●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単に拭き取ることができます。

■温　　度

●自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。

●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

■ショ ッ ク

●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。

■磁　　気

●家庭用電気製品（テレビなど）程度の磁気には影響ないように耐磁構造をとってありますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ・進みが生じることがあります。

■薬　品　類

●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■保　　管

●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと、数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■データ保護について

電池切れや電池交換および故障修理の場合、データ内容はすべて消えてしまいますのでご了承ください。また、故障・修理・電池交換等に起因するデータの消失による損害および逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。なお、大切なデータは付属の備忘録やノートなどに控えをとっておいてください。

万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■お手入れのしかた

●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。

●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

■お手入れを怠ると

●「サビ」
・ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
・表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。

●「劣化」
・樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に保管すると、劣化が早くなり、切れたり、折れたりすることがあります。

●「かぶれ」
・皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
・万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。